

すぐアハる
かお♡

女体化ウイルスで女体化した
お兄ちゃんと、

ふたなり妹のアヘアヘな毎日

基本CG8枚 ストーリー80枚

流され
やすい♡

防御力
ゼロ♡



女体化

ア

人

顔

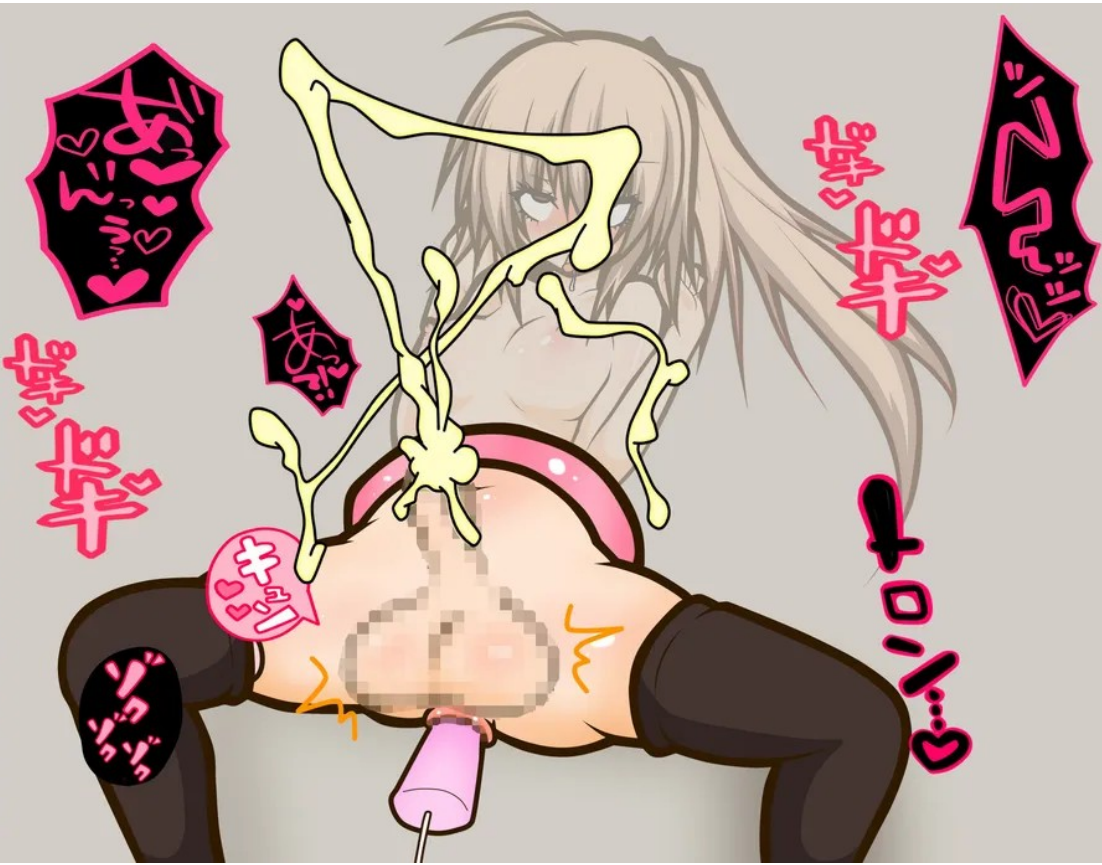


「ひあああ!?!」
『それ私でも腰が抜けちゃうくらい気持ちいいから、頑張ってるわ。あっ、取ろうとしたら口聞かないから。さてカウントダウン5〜4〜3〜』



「まっまって、ヒナ……こんなのをされたら……ボク。冗談……だよわ?」
『3〜2〜1〜』
「お願い、怖いよ……ゆるし……」
『ゼロあ!?!』
カチッ

（んおおおおおおおおおお！！いくっ！！調教
済みずっしりメスキンタマ、簡単にワン
タッチでいかわれりゅうっ！！んおおおお）



「あはは、ホントにあぐイッチャう。タメ
チンポだなあ〜ほらほら、そんなんじや
もたないよ？」
「今日はヒナがキンタマ責めにされても簡
単に射精しないようにキンタマ鍛えてあげ
るんだから」

『兄貴〜兄貴〜いい加減、出てきてメシくらいい食べなよ?』
『何やってるかしらないけどナ……私だっ
て心配なんだよ♥?』



私の名前は【佐々木 陽菜(ササキ ヒナ)】
●6歳。この目の前の扉の向こう側にオタ
野郎【佐々木 有紀(ササキ アキ)】の妹で
ある。

兄貴はオタクではあったけど、少なくとも引きこもりのニートでは無かったはずだ……。
それに、カッコいいとは言えなかったけど、優しかったし……人様に顔向け出来ないのは、パソコンの秘蔵フォルダの中身くらいははずなのだ……♡♡♡



いや……でも……一番多いのが妹モノと言
うのは如何なものか……いや、嬉しいけど……♡

「ヒナには関係ないでしょ……ほっぺて
ぬ……」



中から、押し殺した様な声でそんな言葉が
聞こえてくる。その言葉に私は……

『この私が心配してあげてるってのに、なんだぞの言い種はあゝゝゝ』

実は極度のナマリ。



『お兄ちゃんならお兄ちゃんらしく、妹の下着盗んでハァハァするくらいの根性みせろー！誰のために普通に私の下着を見える場所に干してるとおもってるのよゝゝ？』

「えええええゝゝゝゝゝゝ？」

思い切り扉を蹴り開けた。
「あっ……あわ……あぁ……こっこれ
は……」

!!?

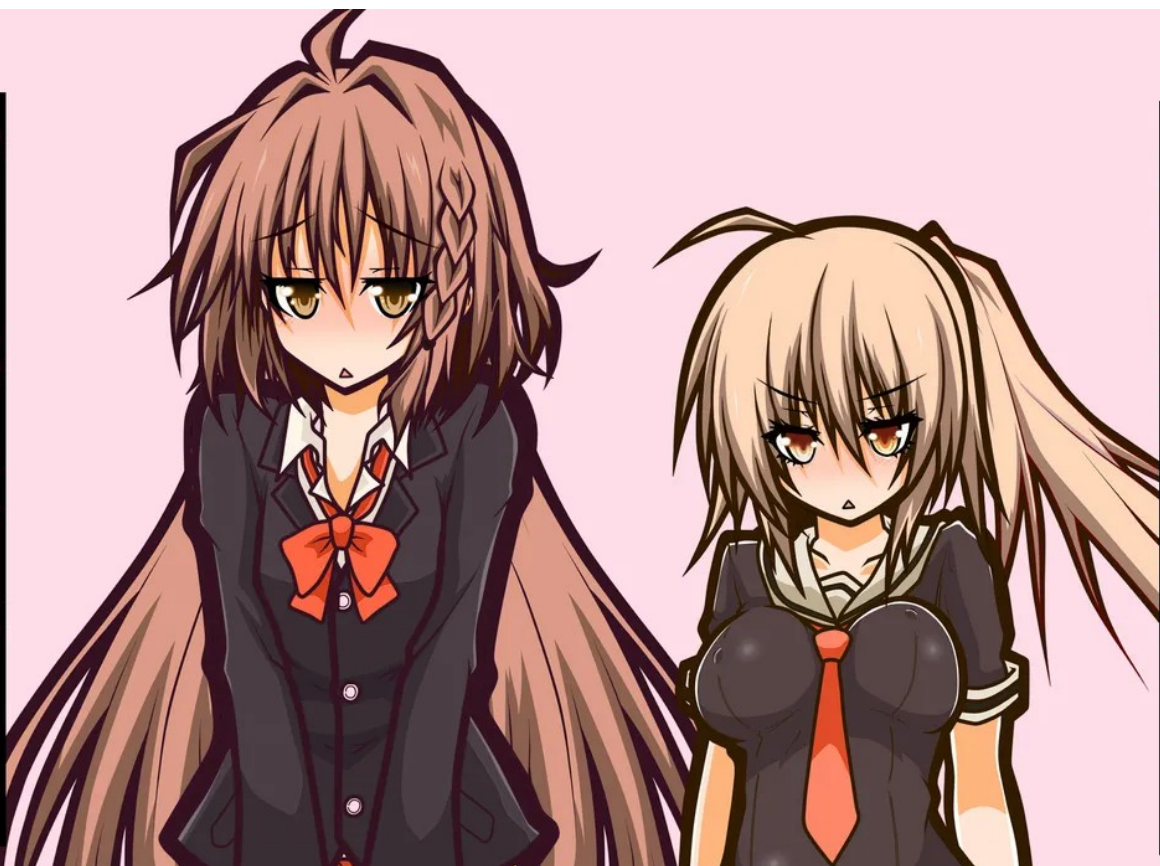


『……え?』

女体化ウイルス。
男にのみ感染し、どんなキモオタでも『美少女』へと変えてしまう、正体不明のてんでモウイルスである。



『なるほどねえ……女体化ウイルスってオタクとかの妄想じゃなかったんだ……』
『あのお兄ちゃんがこんなになっちゃうなんて信じられないわね・微妙に』



「ボクもそう思ってたけど……三日くらい前から……こうなって。お母さんに服はな
んてかしてもらったんだけど……」



「その……こんなの気持ち悪いよね？さめんね、ボクこんなので……学校でもヒナに迷惑がからないように近寄らないでいたけど……こんなのバシチャったら……ヒナにも迷惑……」

「痛っ♡♡♡?」



『ちよい黙る』
バジミ

「うん、これはこれで全然ありよね……♡♡♡
しろ、精神的に弱ってる今なら……♡♡♡う
ん、むしろ好機♡♡♡」
『私だっておお兄ちゃんの妹なんだよ？確
かにお兄ちゃんはパソコンのフォルダいっ
ぱいに妹モノの同人誌め込む変態さんだけ
で……』



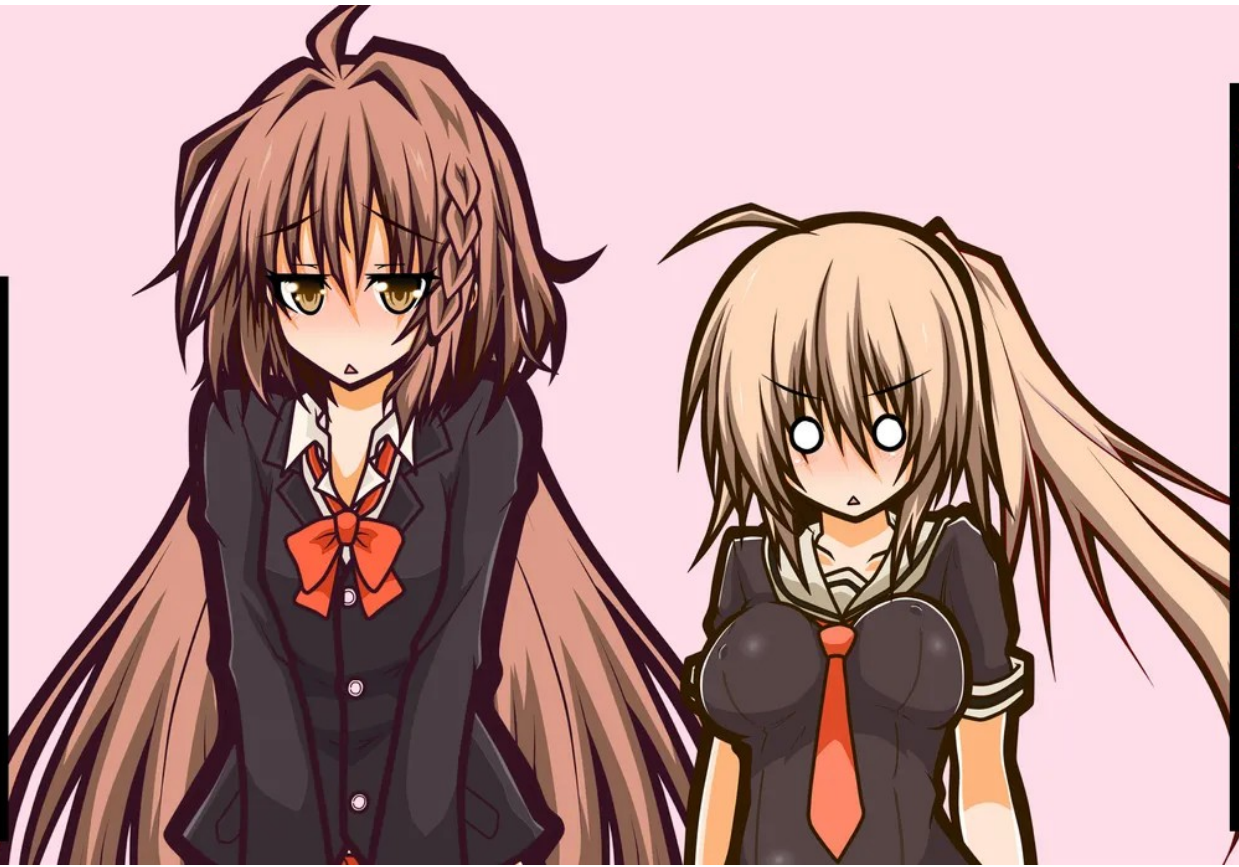
「ちよっ♡？なにを知って♡？」
『シヤアラップ♡』
『ソナナコトハ、ドーマイイノテス』
「なんでだよ……♡？」

『ごにがく! 私はその様な事でお兄ちゃんを嫌いになったりしないのっ! お兄ちゃんなら私が変な病気で苦しんでたら私の事、嫌いになるの?』
「なっなる訳無いよ……!」



『よしよ……だから安心しなさい。よしよし』
「うう……ありがとう」

「……………え？」



『だが、しかめし！私に散々心配させた責任はとってもらおうからね？』

『へえ〜可愛いパンツ履いてるんだあ？
なにになに？こう言うのが好きだったの？
言ってくれば履いてあげたのにい。学校
中に言いふらすけど』



(既成事実のためになあ♥♥♥)
「ち、違うよ……これはお母さんが適当に
買ってきてくれて……それよりパンツ見せ
ろなんて恥ずかしいよ。お願い見ないで
……」

『だーめっ♡♡女の子の服は色々面倒なんだから、ちやんと履けてるかチェックするんだからね♡♡』



はー…♡
はー…♡
はー…♡

『まあ、そっちはあーお母さんが美味しい所全部もってっちやっただみただけでっ』
『そ、それならもう……』
『まだだめ♡♡それに……』

『ちやあんで、そう言うてキの為に教えて
おいてあげないて。お母さんに聞くわけに
もいがないでしよ?』



クチユ
「ひああっ!?!?ひっヒナ!?!?そこは……
『ひああっ!?!?だって、可愛い声くら。女
の子だって普通に性欲が溜まるんだよ?
お兄ちゃんだって、年頃な訳だし』

「でも……そこ、汚い……」
『ソコじゃないでしょ？あ・ま・ん・こ。
あはは、エロゲみたいな台詞をリアルに使う時がくるとは思わなかったわね。さあ言うまで許してあげないから。ほ・ら・ほ・らあ♡♡♡』



「ひっぴあっ♡♡♡んひいい♡♡♡わっわかった、言うから、言いますがらあ♡♡♡」

「ボクのおまんこ、そんな乱暴に気持ちよ
くしないでっ！っ！っ！んおおおお」



『はい、よく言えましたね。でも、あまり
に可愛い声だしちゃやう駄目なお兄ちゃんに
は、おまんこイっちゃやうまで、妹の指まん
オナニーの刑です』
「そっそんなに、話がちが……」

『動いたらだめ!動いたら、もう口聞いてあげないから』
「そっそんなにや!?!んひっん
ひいい!?!?なっ、なんかくる……!?!な
んかくりゆうさ。こわい……!?!こわいよこ
ナアア……」



『大丈夫。ぎゅって抱き締めてあげてるから。だから……思う存分いっちやっつてね?』
「んひっ♡?!?いっくう……♡?!?いっくう
う……んおおおおおお♡?!?」

「はーっ……はーっ……はーっ……いっ
ちやっらあ……」

『よしよし、良くできましたあ。じゃあ、
今度はこれで可愛がってあげるからね』
「そっ、それってロータ……」



『ヒンポーン、さすがエロ同人御用達アイ
テム。あつ勿論、私のお気に入り奴だわ
ら威力は保証するよらら？』
「ひ……ヒナの……さくっ」
『あはは、妹愛用のエッチなオモチャに興
奮しちゃったの？あきあり♡♡』

「ひあああ!?!」
『それ私でも腰が抜けちゃうくらい気持ちいいから、頑張ってるわ。あっ、取ろうとしたら口聞かないから。さてカウントダウン5〜4〜3〜』



「まっまって、ヒナ……こんなのをされたら……ボク。冗談……だよわ?」
『3〜2〜1〜』
「お願い、怖いよ……ゆるし……」
『ゼロあ!?!』
カチッ

『あはは、すごい。潮吹いちゃった〜それ凄いでしょ？たーっぷり楽しませてあげるからね』
「ごっごめひえ……んおおおおま」



「はっ、はひっ……はひい。もう無理……むりい」
『よしよし、これからも可愛がってあげるからね。お兄ちゃん』

お兄ちゃんが女の子になってしまったと発覚してから、はや数日。今日もお兄ちゃんを快樂漬けにして私無しでは居られない体質にすると言う……
妹として、至極哀つ当な計画もちやくちやくと進行してきた所……その奇病は突如として私を襲ったのだった。

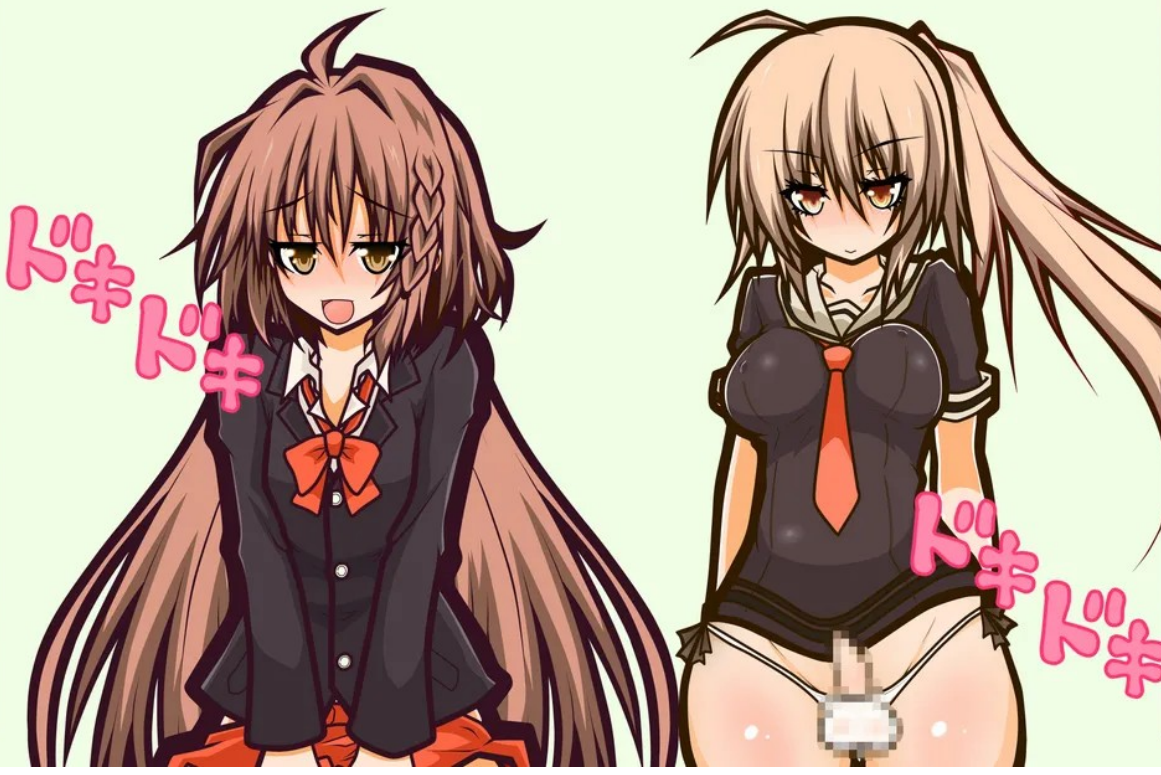


『なっ!?!?!?!? なんじゃこりゃあああ!?!?!?!?』



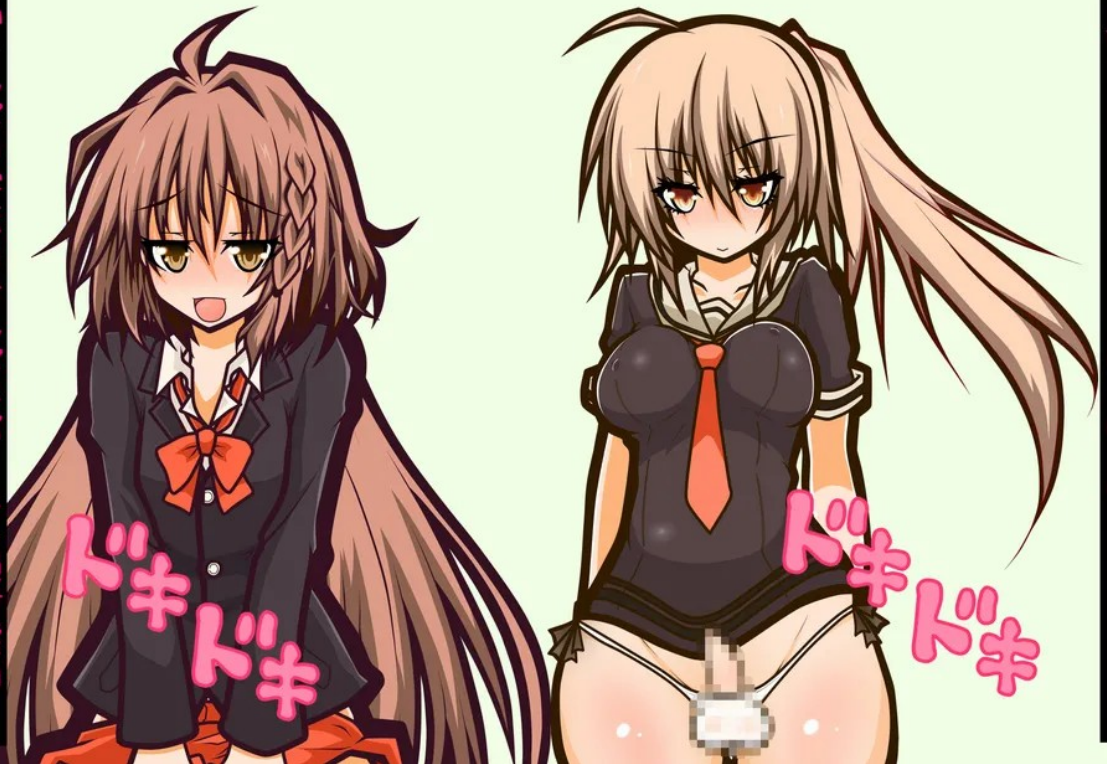
ふたなり化ウイルス
女の子をふたなり化してしまう以下略。
なお、普通の干ンポよりも感度がよく、
射精量も多い。

「なんて言うか……兄妹だよわ」
『ほんて……嬉しいのが悲しいのが解らな
い・繋がりの証明よね……まさか兄妹そろっ
て訳の解らない奇病にかかるとは……』



『まあ……でも、お兄ちゃんの処女は私が賞
うって決めてたし好都合かな』
「しよ……処女……？僕たちは兄妹なんだ
よ……？そんなことしたら……」

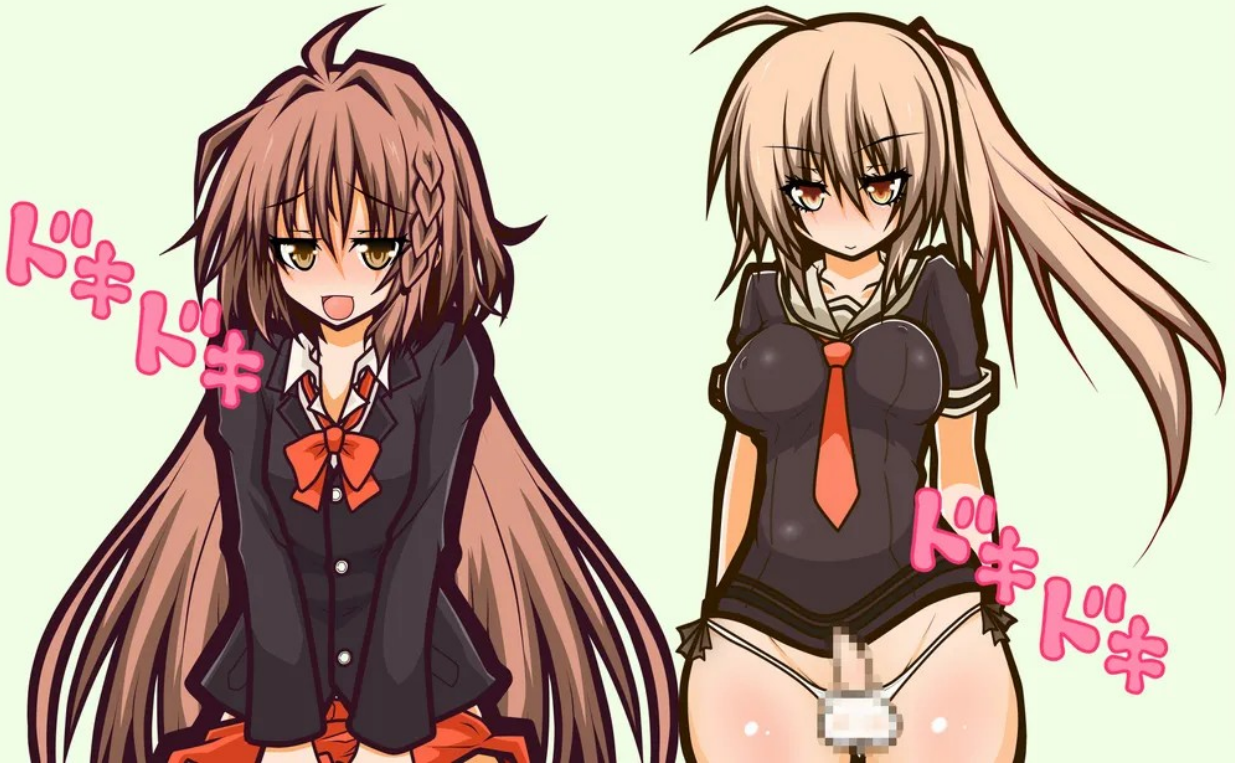
『じゃあ、お兄ちゃんはこのチンポの付いた妹をほってみくっていろの?』



『こんなの学校のみんなにバシたら絶対虐められちゃうよ?性欲の処理の仕方わからず、学校でうっかりおちんちんたてちゃって……』

『妹がエロ同人みたいに!?!エロ同人みたいがいい!?!な事になったらどうするの?』
「で……でも……」

『ちゃんこゴムならつけるから……それなら
良いでしょ？……だめ？』
「わっ……わかったよ……」



『それに、私……最初はお兄ちゃんがいい。
お兄ちゃんはお私じゃいやなの？』

「なんか寒気が♥?」



(我が兄ながらちよらい……学校にこのまま放りだしたら、ほんとにクラスメイトからエロ同人展開があったんじゃないかしら……それはそれで見てみたかったわね)

『だって、お兄ちゃんは私の性欲処理の練習台なんだから。ちやんとオナホみたいにしててくれないと』



『さっお洋服せえんぞ脱ぎ脱ぎしまちようわえ〜』
「う、うう恥がかしい...なんでこの体勢.....」



「オナホ……ポクが……ひでいよま……」
「こがいて、ちやあんとおまんこは濡れ濡れのムシムシになっちやあってるよ？お兄ちやんって、ひよってして、マソ？」
「ちっちが……」

『あつ、こめーん。お兄ちゃんが動くから処
女も奪っちゃったあ。私も童貞卒業。お兄
ちゃんも処女卒業おめでとろ』



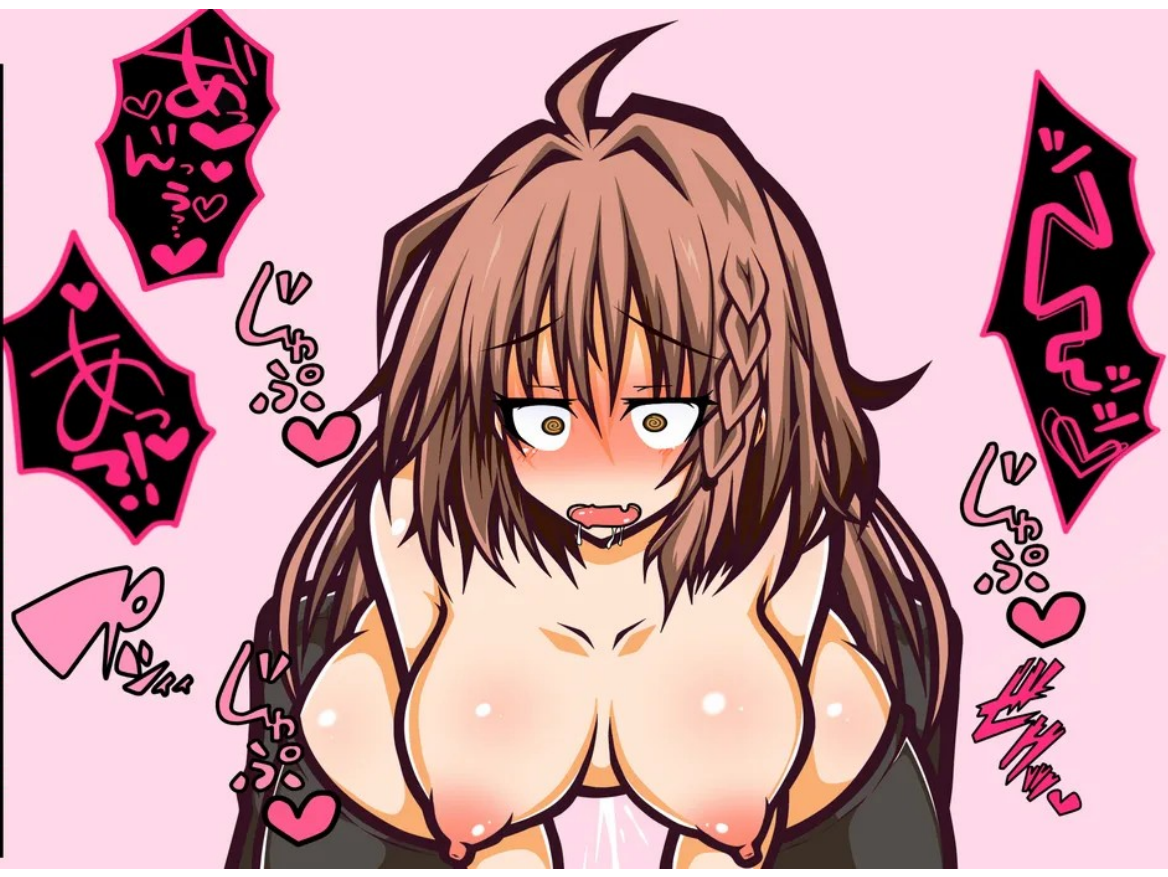
ズブツ♡♡♡
「んひよおお♡♡♡?」

ソクソク
『おちんちんって、こんなに気持ち良かったんだあ？じやあ動くからねえ』



「ひゃ.....んひ.....んおおほお.....?」
『あーりや.....シヨックで頭こんじやったんだ？お漏らしまでして可愛い』

バンバンバンバン
「んひ♡??んおおお♡??ちよっ、
ちよって待って……♡??お
ほおおおおお♡??」



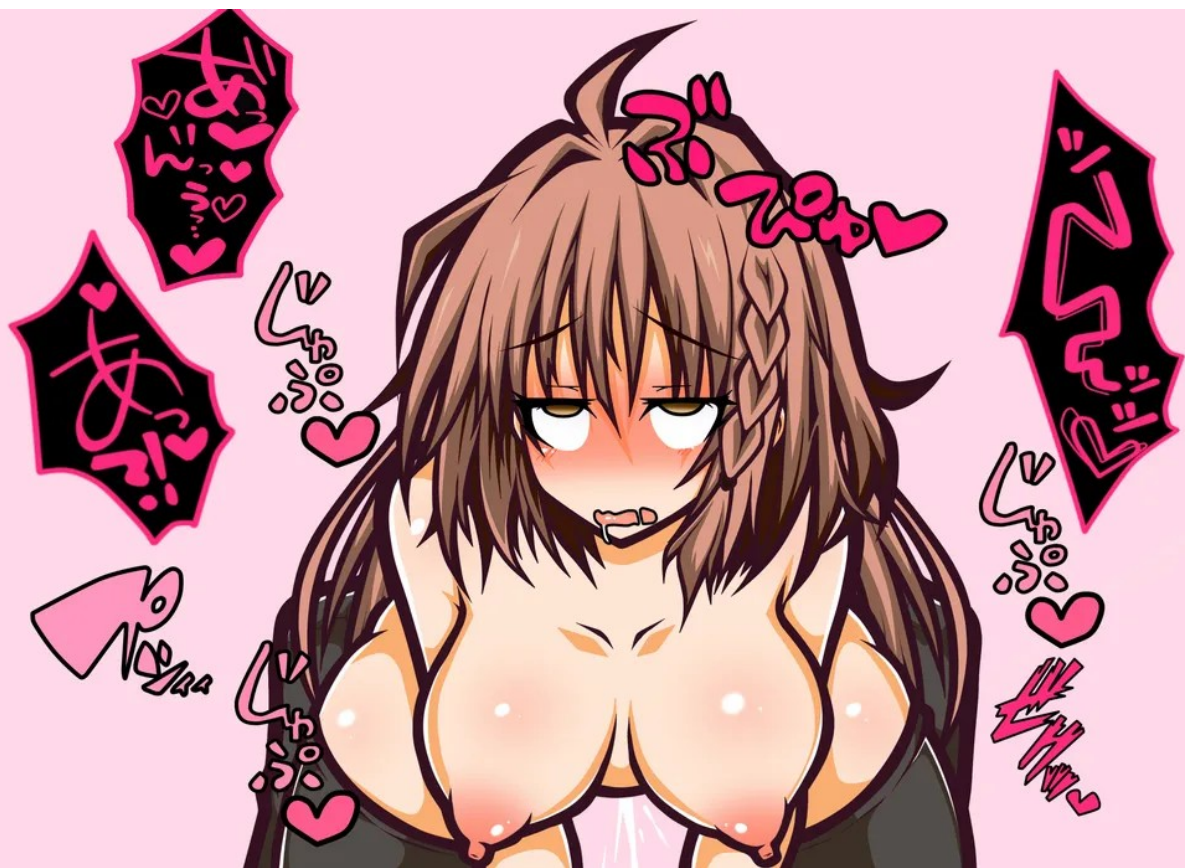
「こっこんにゃの……こんにゃの無理……ほ
ひやおおお」
『なにこれ、気持ちよすぎ……こんにゃの我
慢すぎる……いくっ！ちやっ……♡』

「一緒に起こっ……お兄ちゃんも一緒に
……いっくっ……いっくっ……いっくっ……」
『あー……でてりゅう……でちやってりゅう
……女の子なのに、お兄ちゃんのおまんこの
中で、おちんちんミルクでびゅでびゅし
ちやってりゅうはあ』



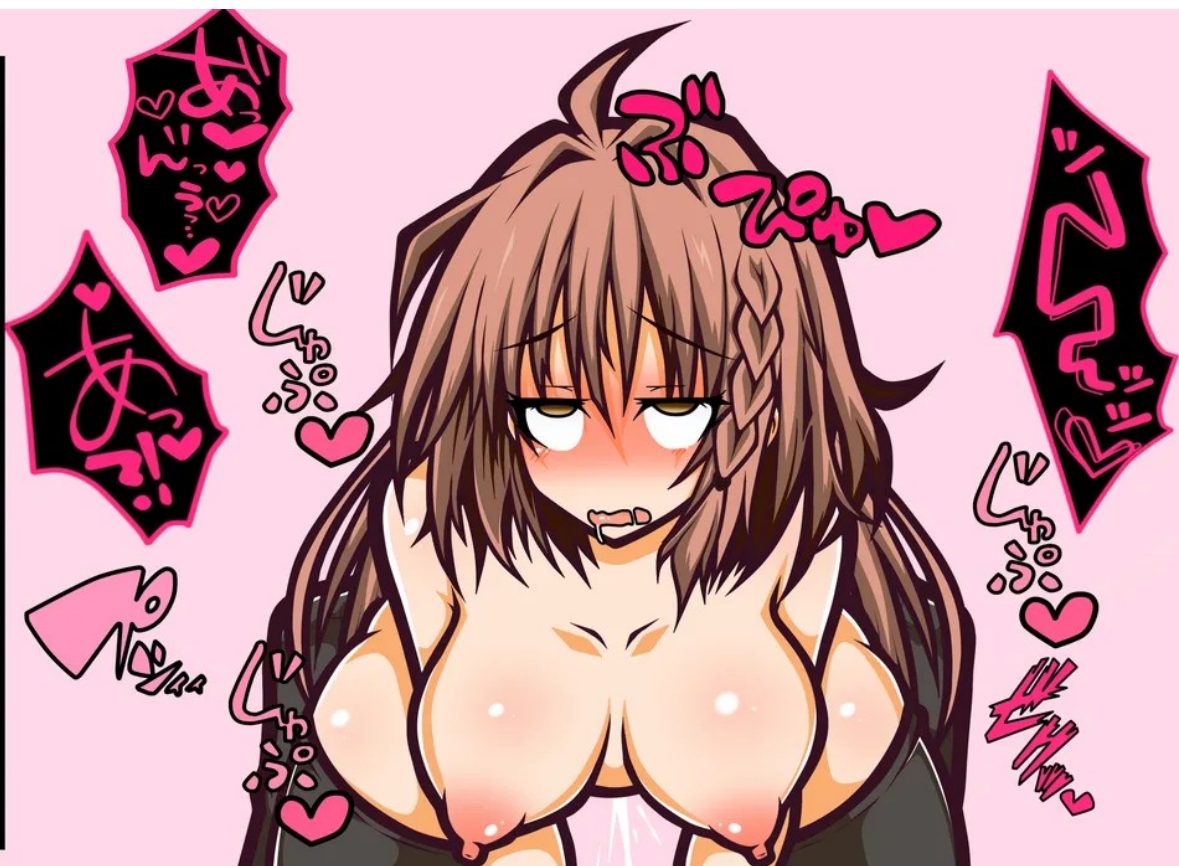
「いっくっ……んおおおおおおおおおお……」
「でってりゅう……中でゴム膨らんで……
はっ……はへ……終わった……？もう終
わっらあ？」

「ほっほおお♡♡？まっまって、今いった
はっかりなのにな…んおおほお♡♡？」



『……無理。全然おさまらない。もういっか
い♡♡わっいいでしよ♡♡？いいよね♡♡！』

「いった！もういったから！もうゆりゆりしてええ。ふひい？そ、そ奥？んおおおお、そこおちんちんでノックしにやいでええ」



「おっ覚えちやうかりやあ、おちんちんの気持ちよさ、お前覚えちやうかりや許し……ほひやおおお」

3の分後



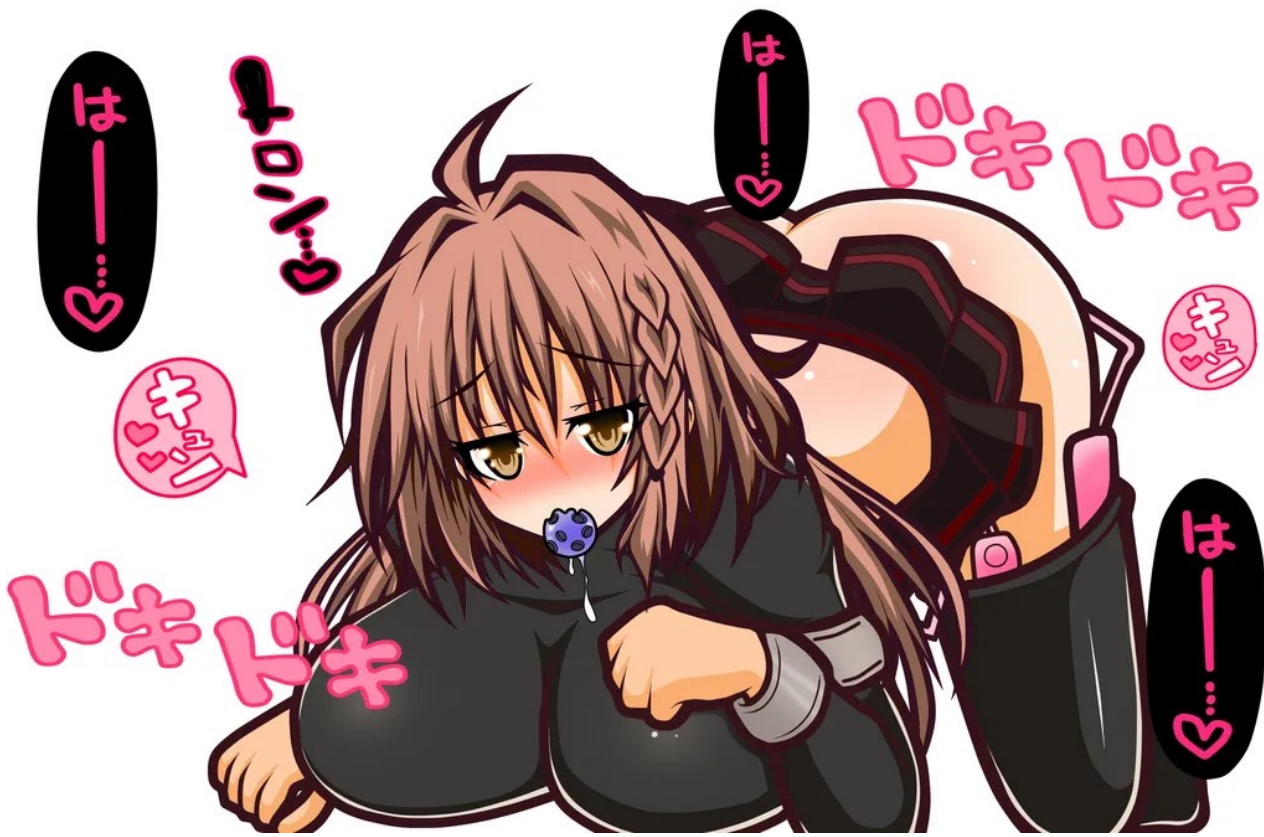
「はぁあはぁあ……もうたない……気持ち良かったわ、お兄ちゃん。これからも、私専用のオナホにしてあげるからね」
「んへええ……んへええ……おまんこ……ヒナの形にされちゃっら……おほおお……」

兄妹としての一線を越えたあの日から、私達は次第にお互いの欲望を抑えられなくなり……
最初は恥がさがさってたお兄ちゃんも、次第に私のおちゃんを……



『求めてくる皆なのよ♡♡♡そろそろ私の計画では♡♡♡』
「ええ〜〜……」

『そっ！！ええ、じゃない！！可哀想なモノ
を見る目もしない！！』
「いやだって……普通に考えて、兄妹でって
のはきって良くないし……」
『……わかった。お兄ちゃんが言うこと
言うなら私にだって考えがあるから』



「んぶっ♡♡んぶううう♡♡」
『ほらほらどう？えっちなワンちゃんになっ
た気分は？おまんこにローターまで入れて、
上と下の穴からエッチなよだれだらだら垂
らしちゃってる感想は』

『これから、本当にお兄ちゃんは私のモノなんだって解らせてあげるから』
「んぶううう……んっ、そんな……」



『そんな声だしたって、結局私にこんな動けなくなるまで好きにさせて、おまんこグシユグシユになる位期待しちゃってたのは誤魔化せないわよ?』
（うっうう、言わないでえ……）

「そっそれ……アナルプラ」
「ぐふろろろ！？？ぶる、ぶ
ひいひいひい！？？」



『ほらほらおまんこ、またヒクヒク反応し
ちやってる。でもまだお預け。せっかくワ
ちゃんになったんだから、しっぽもつけない
てね？』

『もう効いてきたんだ。安心してね、ただそのローション、副作用というか、効果がきますぎて』
『はじめてのアナルでも、おちんちん24時間受け入れオッケーのトロトロケツまんこに変えちゃうだけだから』



『あはは、ワンちゃんじゃなくて、豚さんになっちゃった。ちやあんで、媚薬ローションでめるめるにして、初めてでもあんまり入る様にしておいてあげたから』
「ふひっっっふひひいひい？」
(おしりっっっおしりがあぢやいひいっっっ)



『ほらウーちゃんにみ似合いの餌パチにいれてあげたから』
「んみっ♡♡♡」
(...これ...飲むの...♡♡)

『おしりのぬにや震え……んおおおお！？
わかったぬわかりましたぬ！？のたましゆ、
のみましゆかりやあぬ』
『じゃあ手伝ってあげるね』



『……………んおっ♡』
「んおっ♡…んおっ♡…んおっ♡…んおっ♡…んおっ♡…
ひい♡♡♡」

（くっ、臭い……♥♥♥脳まで焼け……んおおお
お。たったあけ……お
ほおおおおおおおおお」



「んおおお……♥♥♥」
（ギョッきた……妹のおちゃんちみろく……ん
お……んおおおお）

『あは、よく飲めました。偉い偉い。さっ抜いてあげるね』



ズリユン
「んおおおおおおおおお♡♡♡けっけつまんこめくれ……♡♡おひよおおま」

『ありや、遅かったかな？さ、お兄ちゃんは誰のものかわかった？私のものになれば、そのケツまんこもおまんこも、ぜーんぶ気持ちよくしてあげるからね』



「はっはひ...わがりまひたあぬ、ボクは妹専用のオナホ犬でしゅうち、ケツまんこもおまんこも.....」
「全部七ナのものでしゅ.....んおおおお」

『たまには虐められてみたいわね』

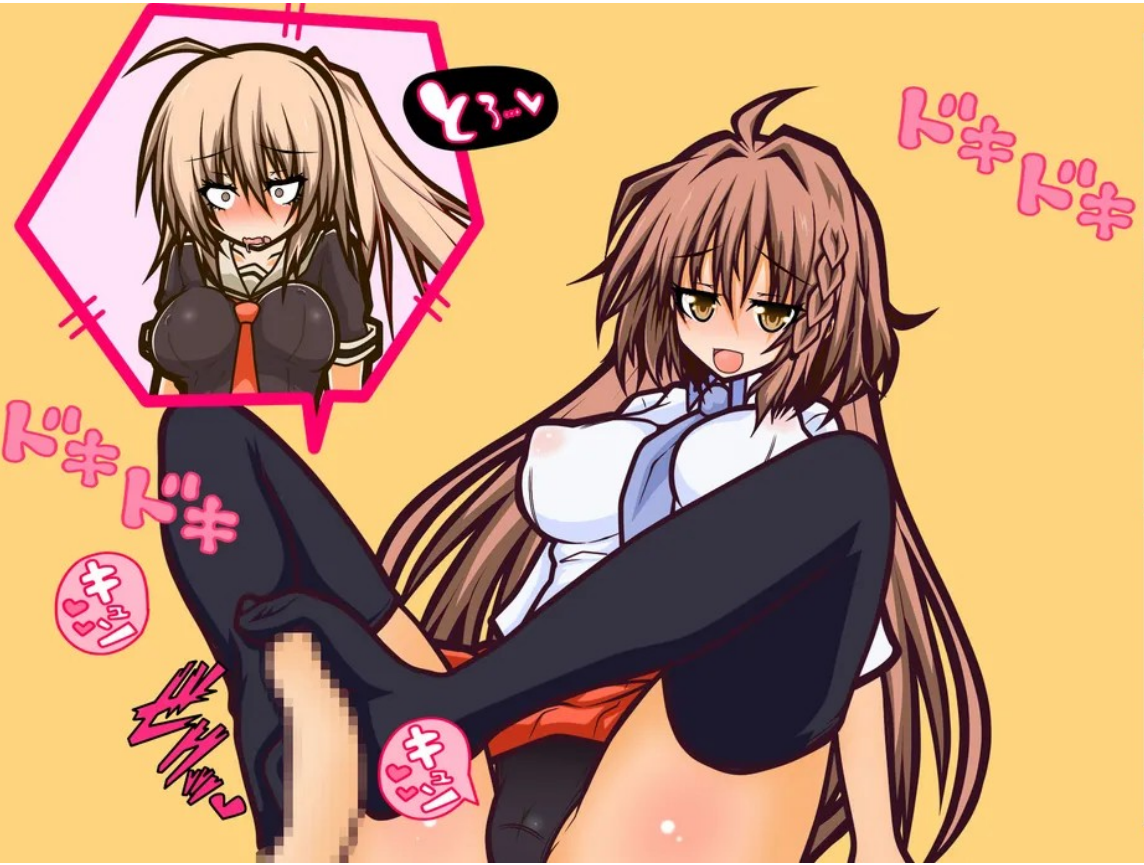
「ヒナが乱心した♥♥?」

『むう、なによ。私だって女の子なんだが
ら、たまには責めるだけじゃなくて、責め
られてみたい時だってあるのよ?』

『それにお兄ちゃんだって、やれっばなし
より、たまには責めてみたいでしょ?』

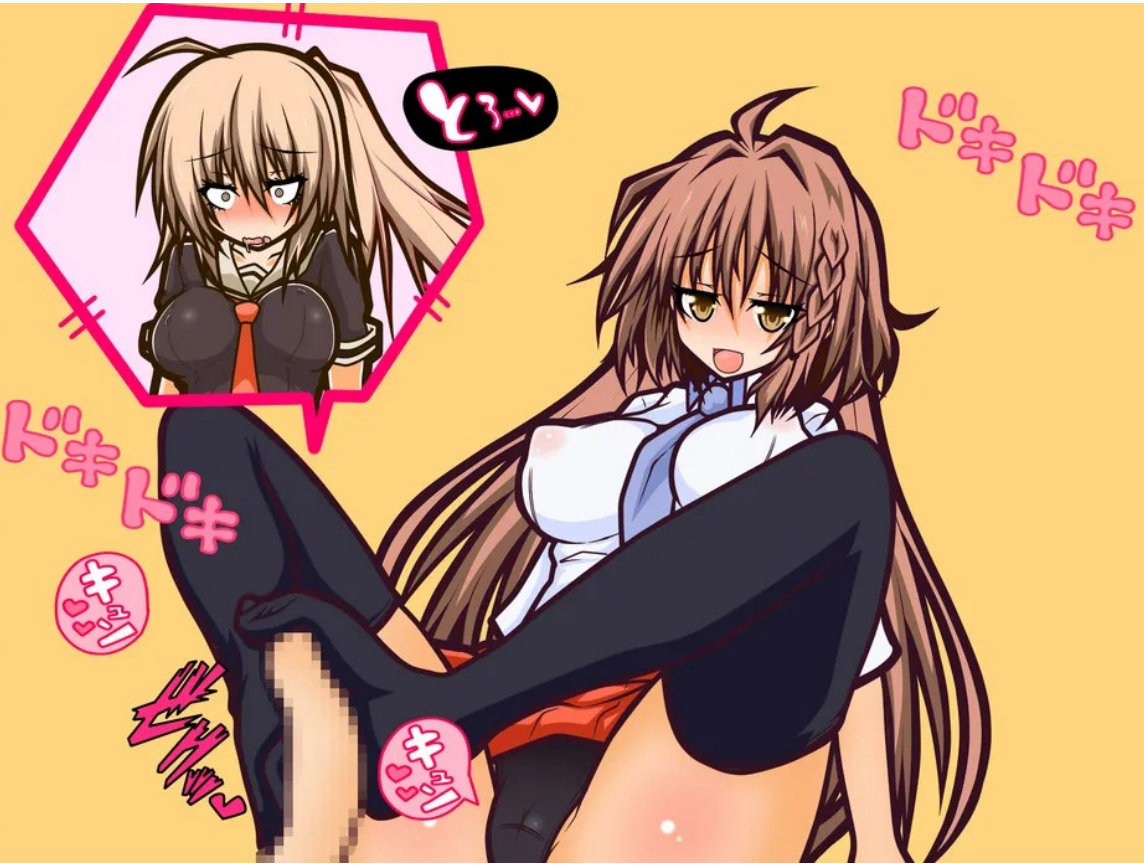
……と言うことで。

「おっねえ……？本当にこんなので気持ちいいの？足コキが確かに定番だけど……現実だとしてどうなのかな？」
『ご……どうなのかしら？』



(あっ、どうしよう……これヤバイかも……♡♡♡すっごく屈辱的だ……どうしよう、すっごく興奮してきちゃった)

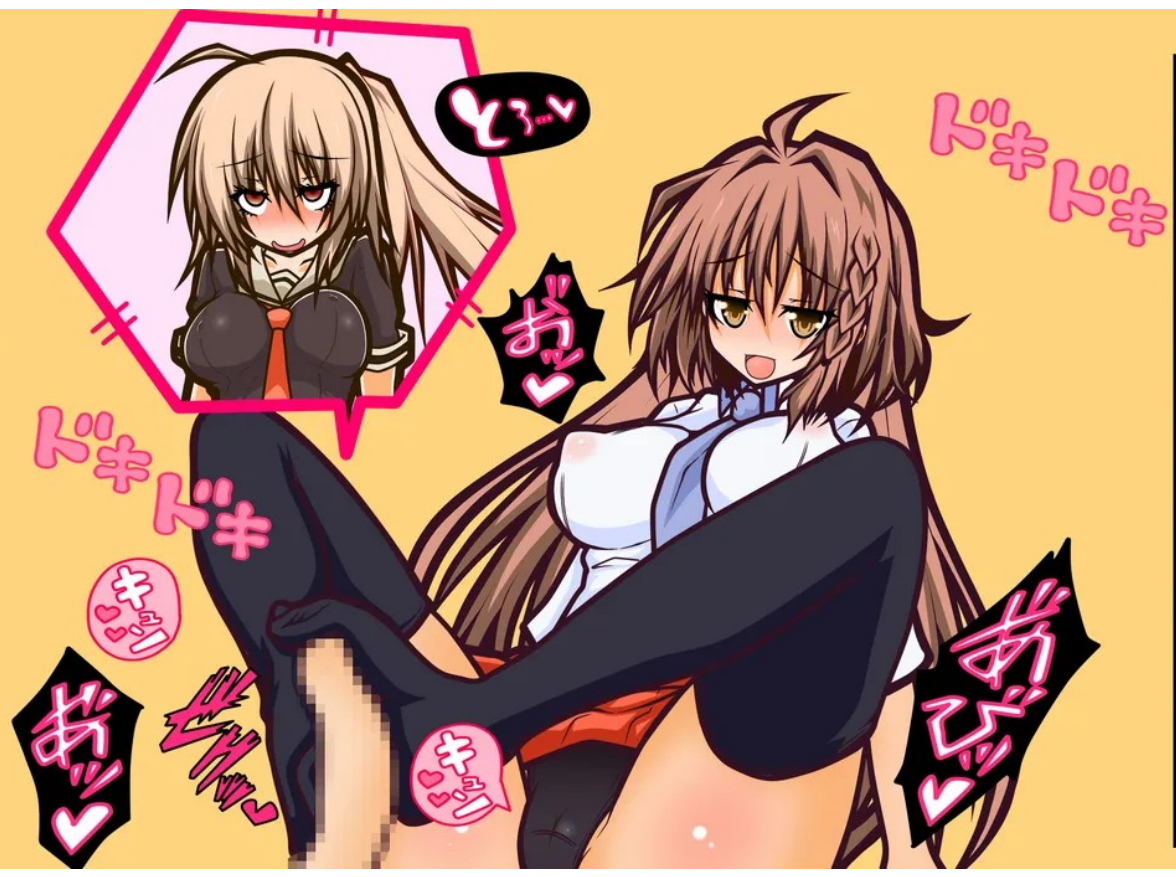
(お尻ちゃんに足蹴にされて、メスチンポ
……すっぴん、チンポに勃起しちゃってる
……♡♡♡)



「じゃ、じゃあ……動くからね」
『え、ちよっ♡』
(……の準備が……♡♡♡)

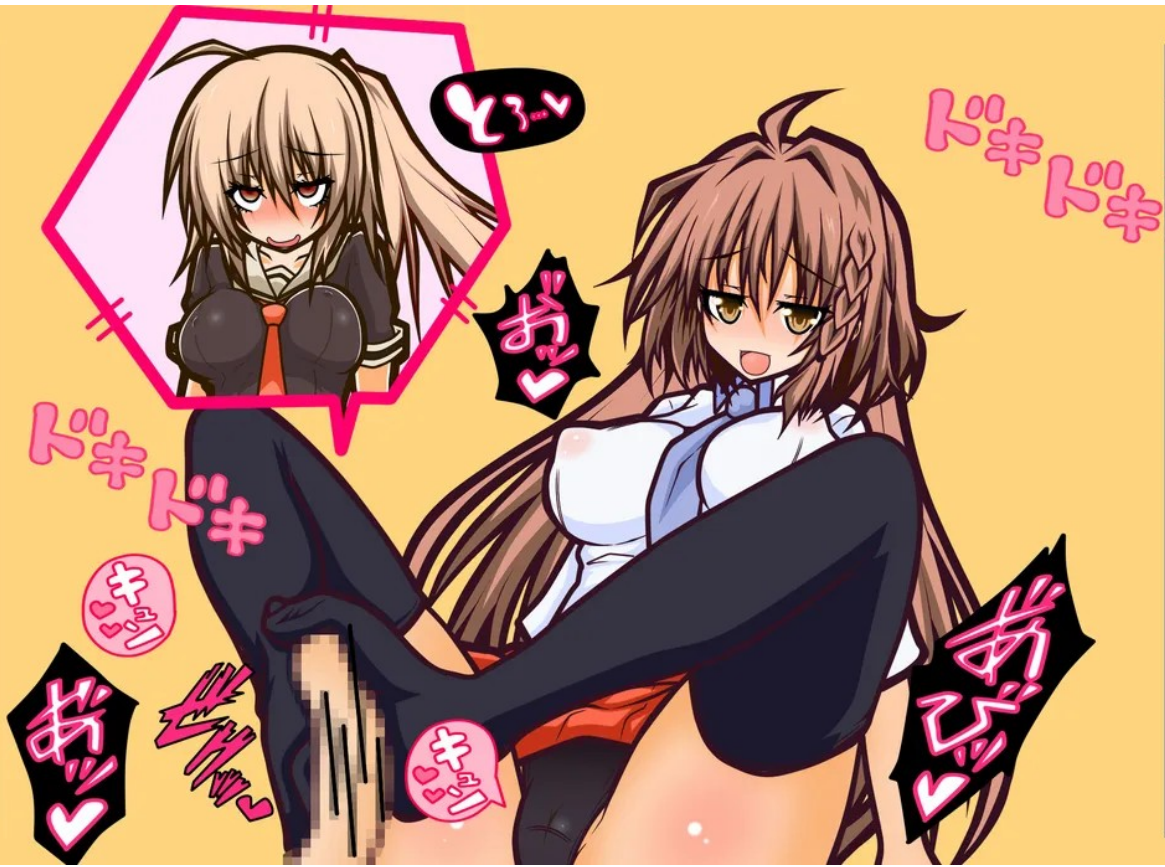
シシシシシ

『んひっ……♡♡♡？んひいっ♡♡♡？
おっ、おちんぼ♡♡♡？んおお……』
「あれ……ヒナ？こんなので気持ちいい
の？まだちよって動いただけなの？」



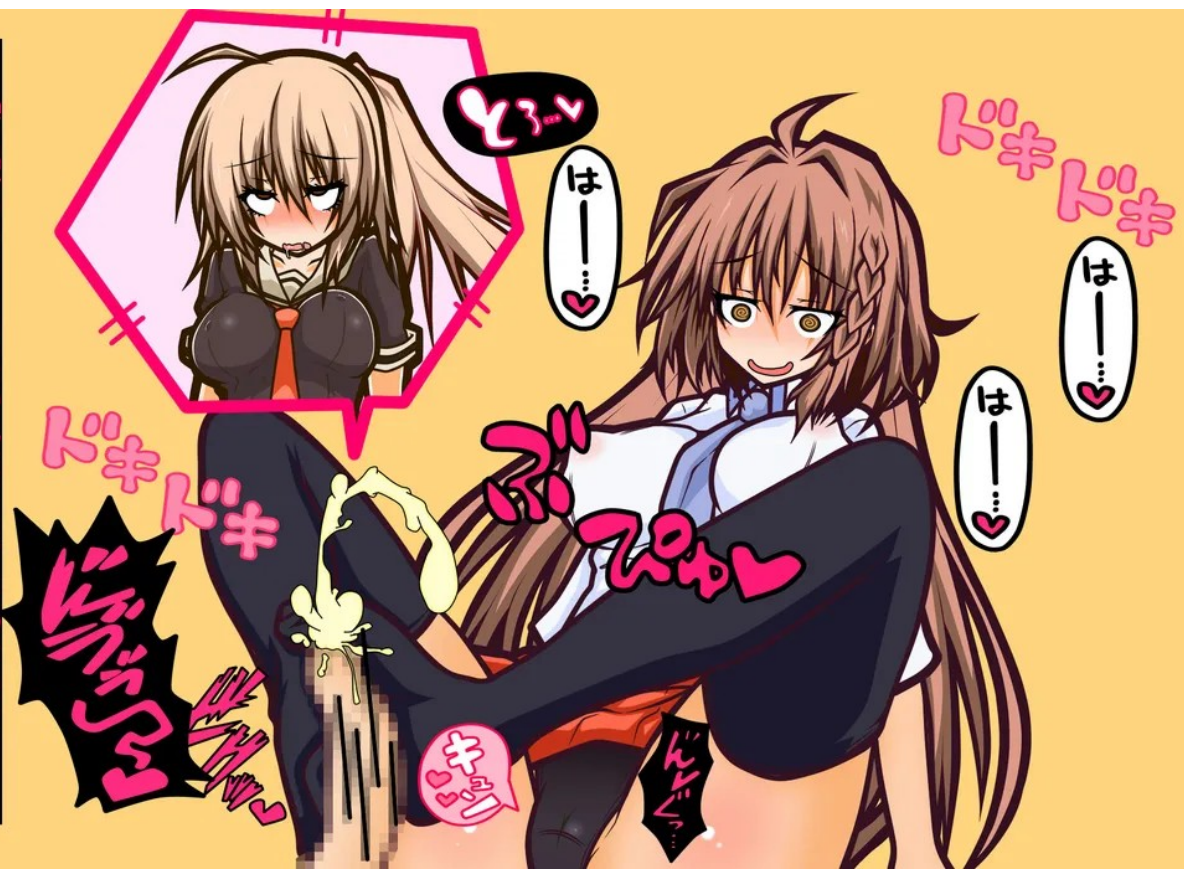
『ふっ、こんにやの……せえんせん……
ほっ♡♡♡？ほおお♡♡♡？きもちよくな
かあぁ……はへえええ』

「……ふうん。まだ気持ち良くないん
だあ？じゃあ、もって激しくしちゃっても
大丈夫だよわ？」
「ほらほら、シ〜コシ〜コシ〜。おちん
ちん頑張れ〜」



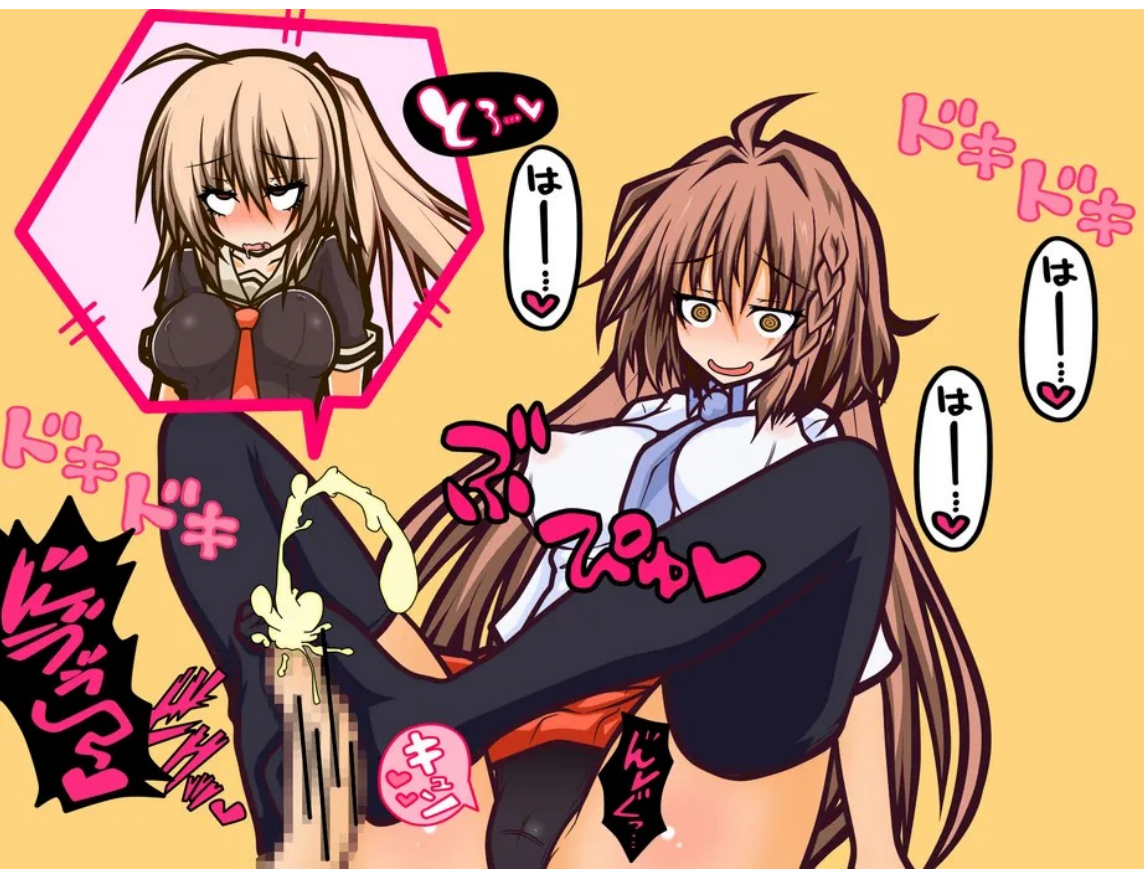
『ほっ、んほおおおおおお♥♥♥ちゅっ、
ちゅっどまって♥♥♥いっく……♥♥♥いっく
ちゅちゅ♥♥♥』

プビユウウウウウ♡♡♡
『いったあ……いっちゃったあ……女の子
なのに……メスチンポ、足でコキコキされ
ていっちゃっらああ』



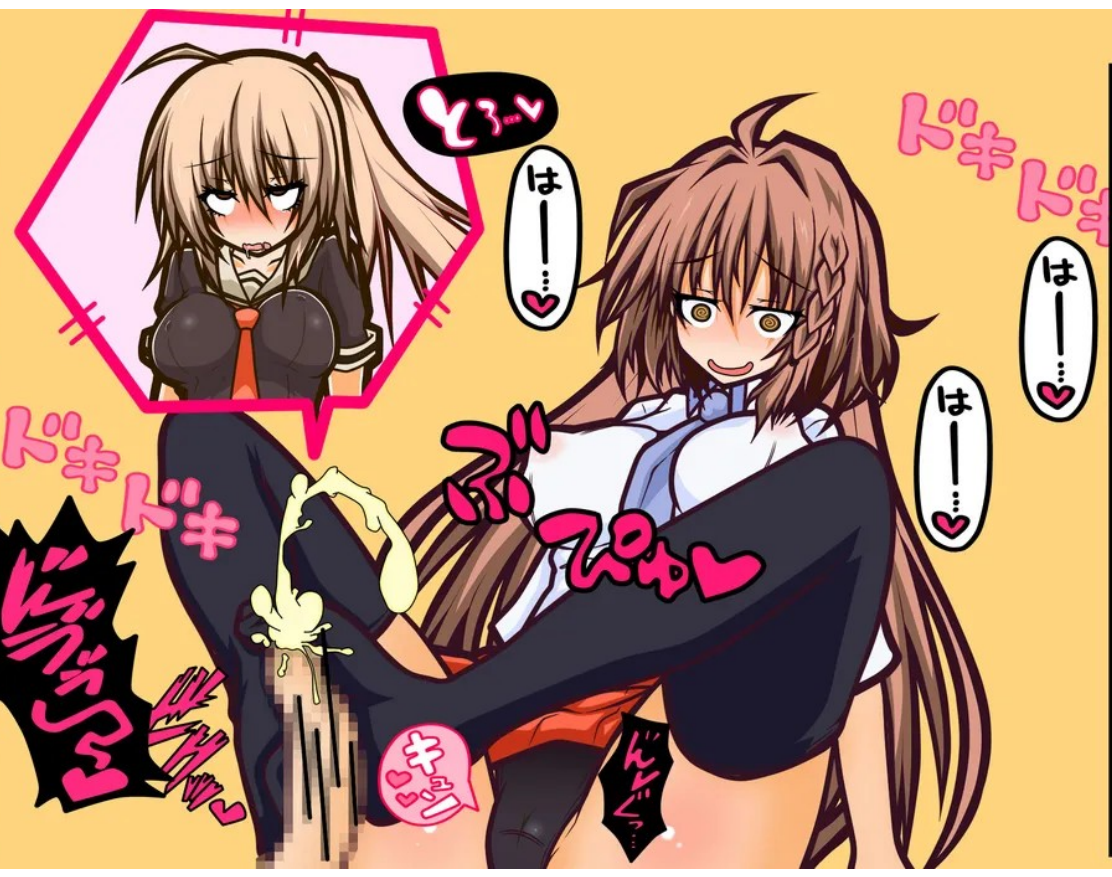
「可愛いよ……ヒナ。だから、もって、そ
の情けないイキ顔見せてね?ほらほら、メ
スチンポ無様にまたいっちゃえ」

『ちよっちよっでまって、まだイッたばっか……♡♡♡んほみみみみみみみみ♡♡♡?』



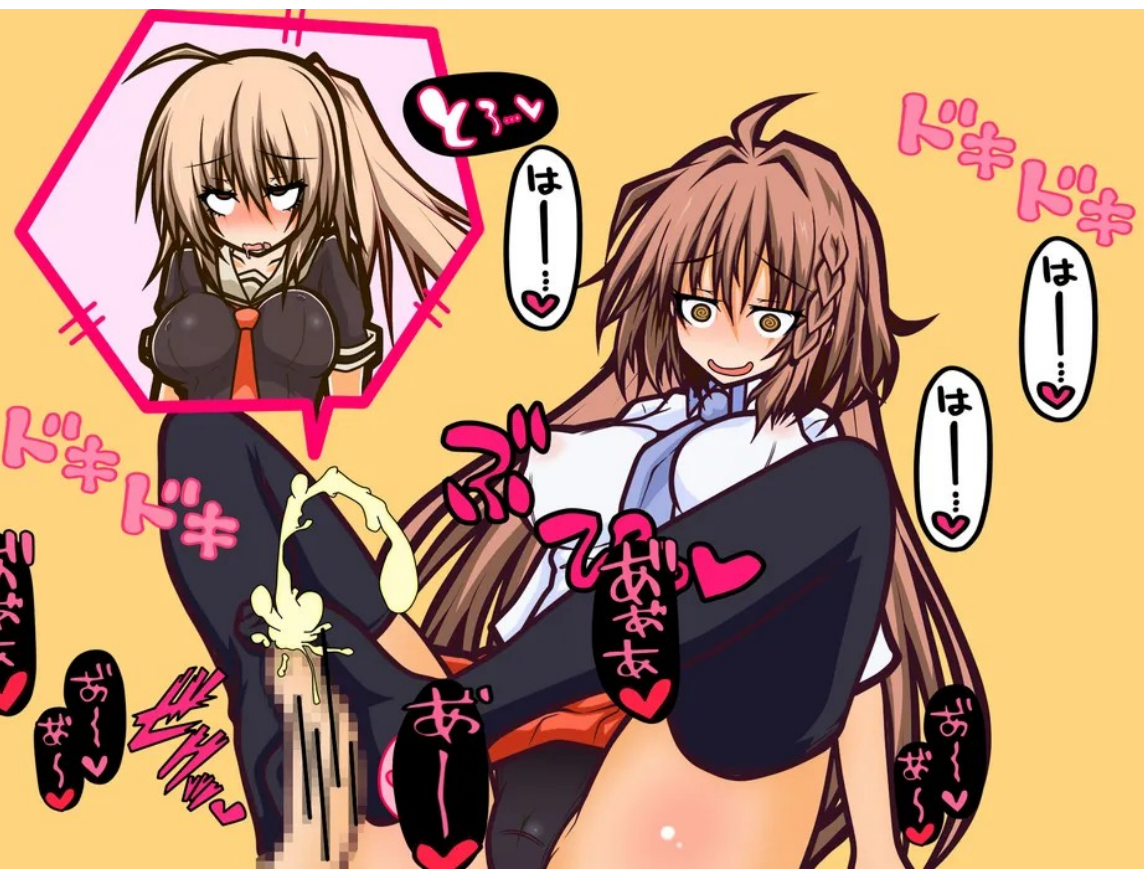
『メスチンポいったばっかにやのにいい♡♡?ほひはおお♡♡?おちんぽ♡♡おちんぽ足で滅茶苦茶にされてりゅのにいい』

『おちんば気持ちよくなりゆうろろ！ん
おっ！？おおお！？だっだめええ、
こんにやのだめええ』
『Oでさえメスチンポ生やした変態女なの
にいい！？おちんちんマソ調教されちゃ
ろろろ！？』



『虐められて喜び、お兄ちゃん専用のマソ
チンポにされちゃうがりやああ。そんな
の終わりのいい！？女の子としておわ
りゆうろろ』

『ゆりゆりしてえええ！もういきっぱに
にやあってりゆかりやあ！みちんちんもうゆ
りゆしてえええ！マソチンポ墮ち秘読み
だかりやあ』



『もう、私の無様なメソチンポゆりゆし
てえええ！』

「だーめ。ほらほら、そのメスキントマが
空っぽになるまで、許してあげないから
ね。ほらっいっちやえっ！」

『んおおおおっ！だめっいくっ！い
ぐろろ！おちんちん、服従アクメ決め
ちやうろろ！』



『んほおおおおおおおおっ！』

翌日

ぶわぶわぶわ……
『ただいまあ、おにいちゃん』

ゴウゴウゴウ

「んぶろろろ♡♡♡んぶろろろろ♡♡♡」
「あはは、スッゴい臭い。汗で愛液でよだれ
て、お腹にいれてあげた私のおちんちんミル
クで……ひっでいこことになっちゃってるわ
っ」



「そんなに、私の昔履いてたスッ水がよかつ
たのおお？それともお気に入りなのバイブ？私
が学校行ってる間、ずうろって、それで楽し
んでたんだもんね？」

「んぶろうろう、ぶろう、ぶろう、あーごめんごめん、外してあげないでしゃべれないかあ」



「ヒナアアア……もうおまんこゆりゆりてえええ……お腹のなかも限界なのおま……おトイしいかせてえ……」



「だーめ。私の恥ずかしいところ散々見られちゃったんだから、お兄ちゃんのさいってーに恥ずかしい所みないで許してあげない」
「だっ、だってあれはヒナが……」

「なにがいった？お兄ちゃん？ずぶちうっ
こ」
「んおおおおお！？？アナルプラウケ抜け
……♡♡♡？らっらみえ……らっら
みえええ♡♡♡でっでちやう♡♡♡」



「妹のプリプリおちんちんミルク浣腸、おし
りからプビュプビュでちやうちうち」

『あはは、よかったねえお兄ちゃん。女の子なのに、射精できるよろしく？おちんちんじゃなくて、ケツまんこからだけで』



「らっらめ♡！らめえ♡！そんなの最低
〜最低だからやああ♡！そんなにやの見られ
たら、女の子としても終わり♡！終わりだよ
おおおおおおおお」

『大丈夫。私はお兄ちゃんがどんなさいつてーなマソ女になっても大好きだから』

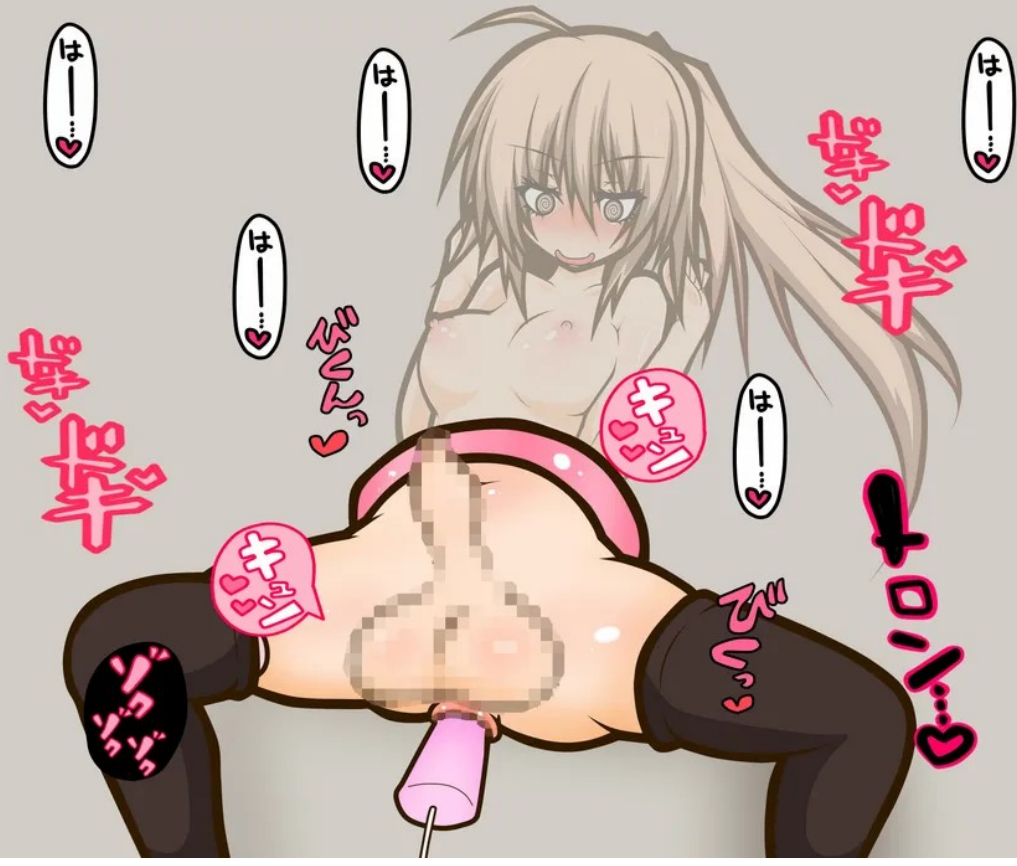


『だから安心して、そのおちんちんミルク。ケツまんこから射精してね？』

エピソード

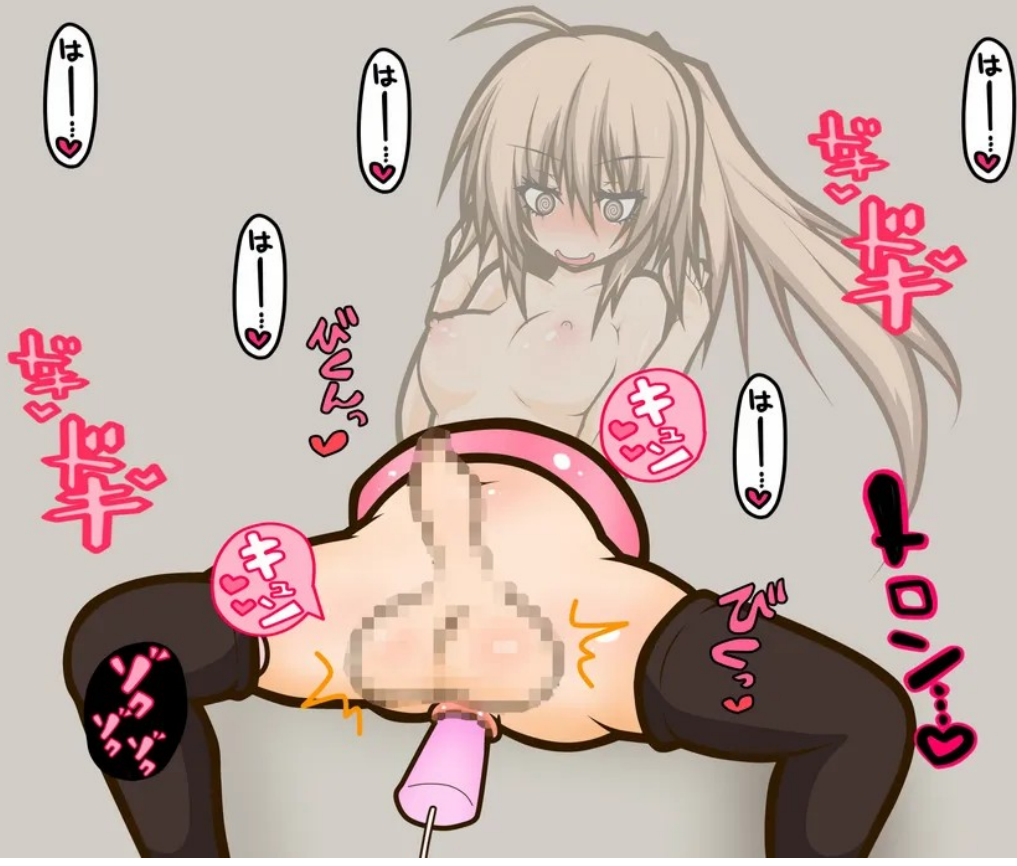
お兄ちゃんが女体化してから、色々変わった事があったわけですが……一番変わったのはこれです。

「じゃあ、今日も変態ふたなりマソ妹の公開調教配信、はじめよろしくいつも通り顔出しはするだけで、壁から下半身だけけてのもエロエロだよわ？」



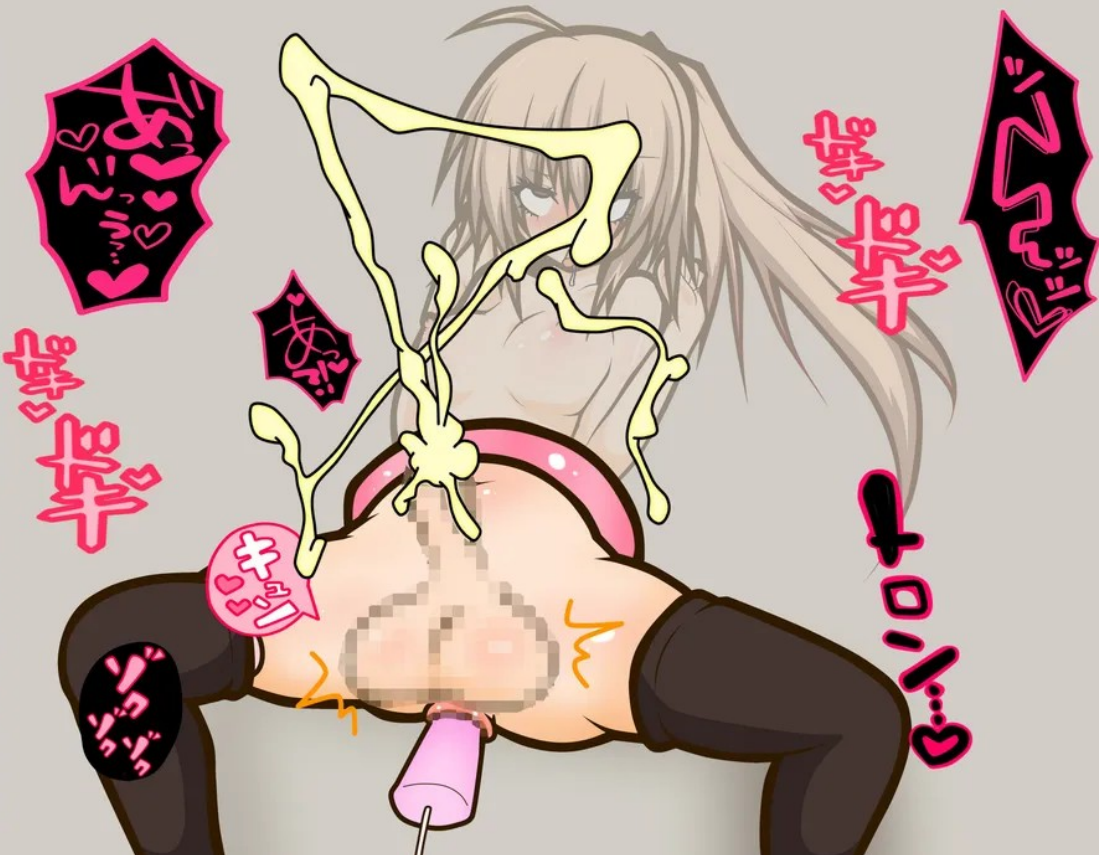
私かふたなりマソにも目覚めてしまった事かもしれない。日替わりでお兄ちゃんを虐めたり、虐められたり...楽しい日々を送っています。

「ほら、お腹の中も媚薬漬けにされちゃって爆発寸前のメスチンポとメスキンタマで挨拶して」



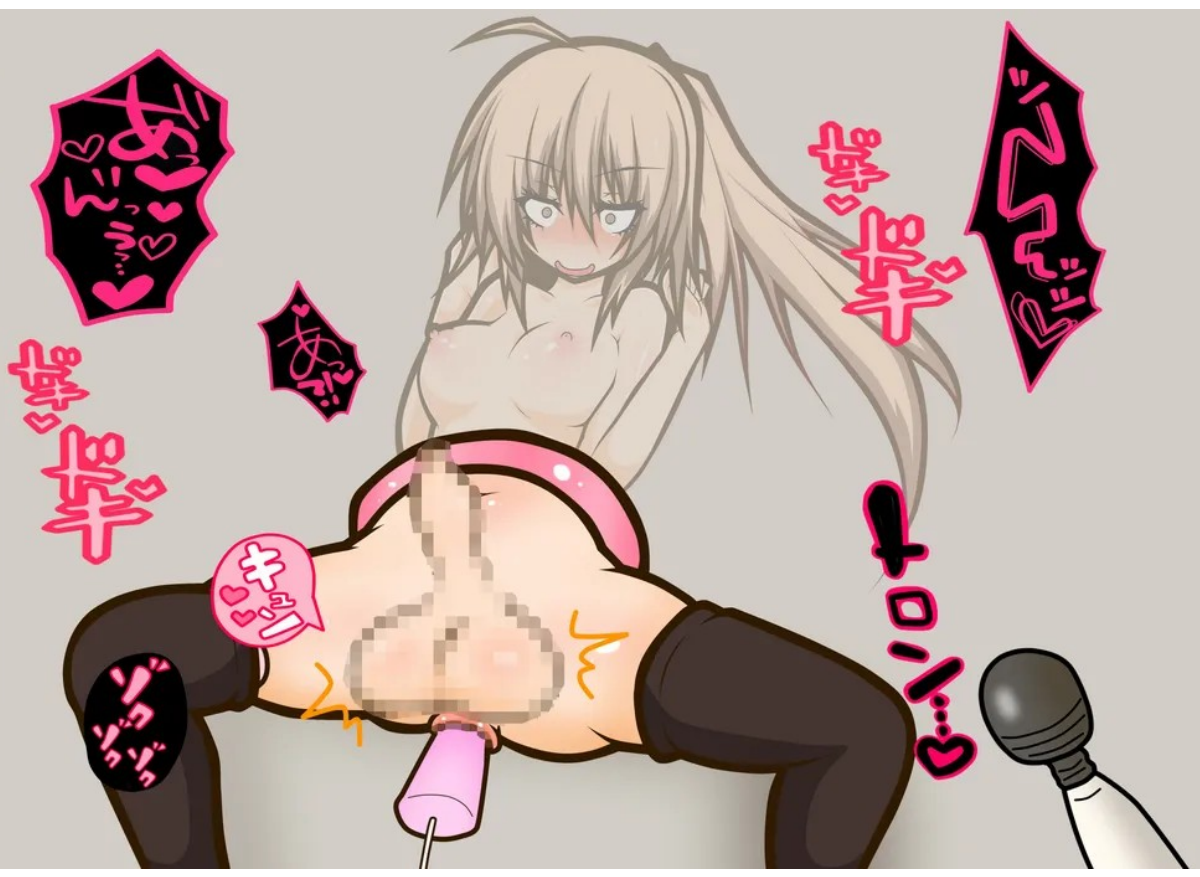
(んひいひいひい♡♡♡メスチンタマがめに見られながら、お兄ちゃんにメスチンタマが入れて……♡♡♡)

（んおおおおおおおおおお！！いくっ！！調教
済みずっしりメスキンタマ、簡単にワン
タッチでいかわれりゅうっ！！んおおお）

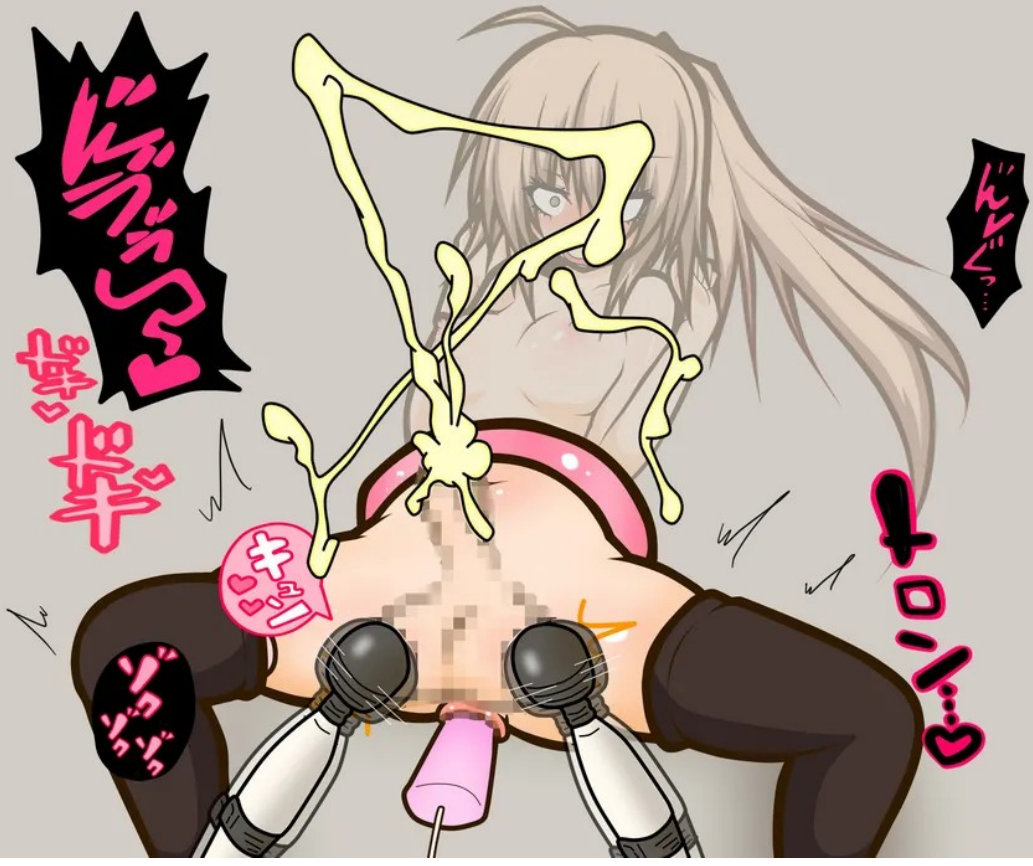


「あはは、ホントにあぐイッチャう。タメ
チンポだなあ〜ほらほら、そんなんじや
もたないよ？」
「今日はヒナがキンタマ責めにされても簡
単に射精しないようにキンタマ鍛えてあげ
るんだから」

「デニムでおちんちんとメスキータマ、
シエイクされて、1の分射精がまん出来る
ようになるまで続けるからね」
「やっそんな♡♡？まっまって♡♡せったい
無理いたえられ」



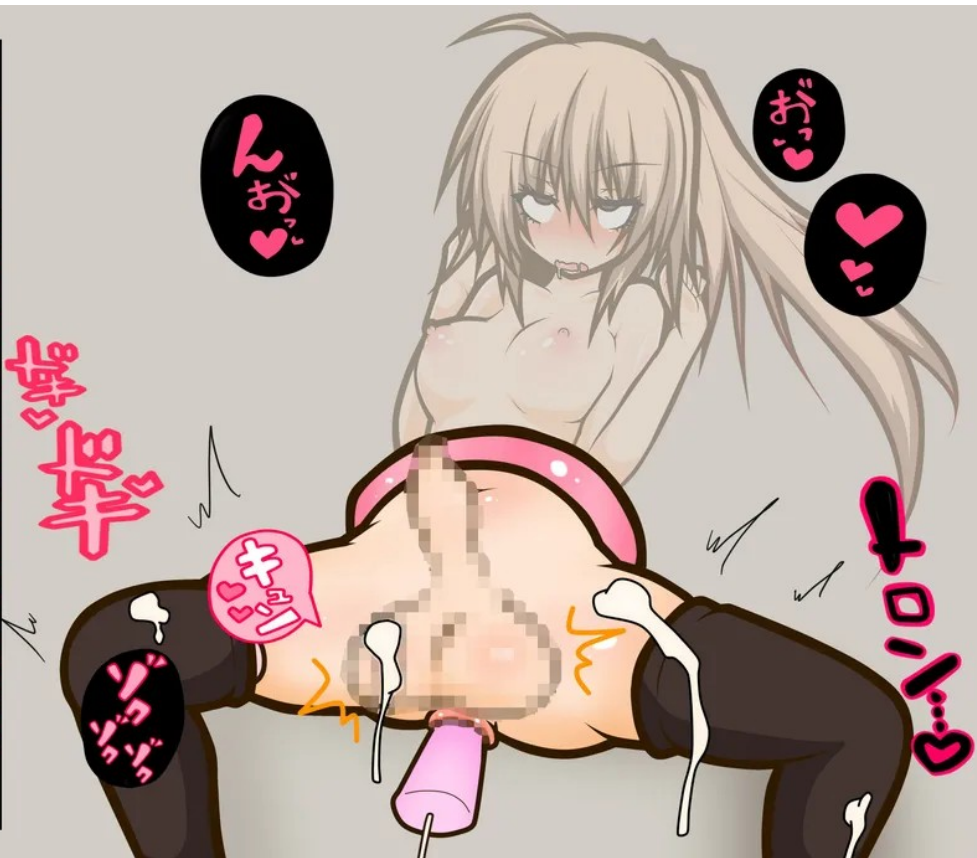
(いってりゅううう...メスチンポ、いぬの
しっぽみたいにプルプルン降りながら、
いってりゅうう)



「んおおおお...?..?..ほっ...?..?..ほ
おおおおおおおおおお...」
(キンタマアアア...メスキンタマぶりゆ
んぶりゆん震え...?..?..んおおおお...)

5時間後

「あしやリヤ……デニマの方が先にねをあげちゃったなあ。おちんちん、もうメスキムタマつついただけで射精するようになってしまったけど……」



「あしたからもうパンツはいただけで射精しちゃいそうだから女の子として完全に終わっちゃったかな？」
(さいてえ……このなの……さいてえ……さいてえ……に気持ちいいよ
おおおおおおおおおお)

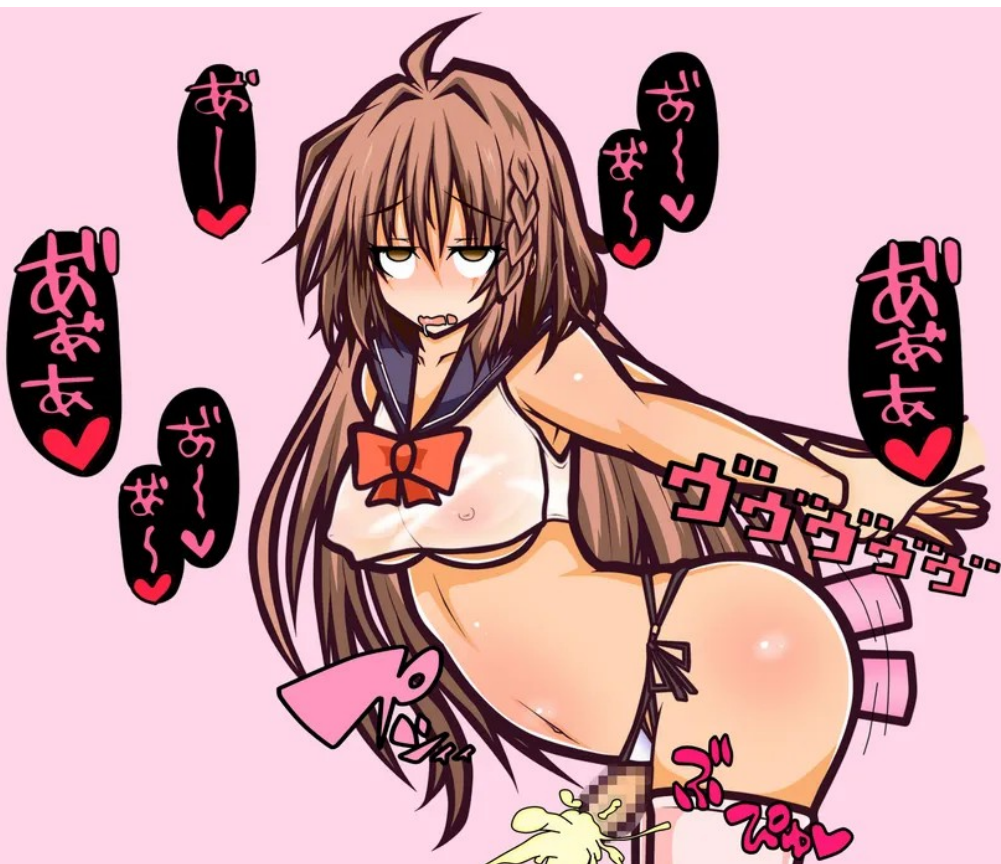
『お兄ちゃん……だいしゅき』
『ボクも大好きだよ』



ポツネタ
シヨートストーリー
お兄ちゃん、女体化+ふたなり化エロド

「でりゅうろう♡♡おちんちん吸われ
……♡♡??んほ
おやおやおやおやお♡」

『あはは、私だって5時間も頑張ったんだ
からお兄ちゃんは1の時間は頑張らない
こ』



「ごめんによさいごめんによさいごめん
によさい……♡♡おちんちん、もう許し
……おっほおやおやおやお♡」